

## NPOが目指すヘルスケア事業

NPO法人  
広域連携医療福祉システム支援機構  
周藤安造  
伊東厚、満生康一、沖眞、渡辺貞一

## 発表のポイント

1. NPOの役割、使命について  
「当NPOは産学官等連携のハブとして  
活動する」
2. NPOとして取り組むべき事業・研究の紹介  
そのひとつが「ヘルスケア事業」である。

## NPOの活動使命

これまで培った主に「広域連携医療ネットワークシステム」に関する研究実績を糧として「25年問題に向けた医療・福祉・介護」に関する以下の社会貢献活動を目指す。

- (1) **地域医療福祉機関への支援**  
自治体や地域医師会等へのシステム化提案活動、ICT教育支援など
- (2) **異業種間の連携・協業支援(産学官医)**  
GCM研究会や交流フォーラムの開催により、異業種、異分野の交流を促し、連携・協業を支援する。
- (3) **企業活動支援**  
企業連携を推進し、事業化を支援する。

## NPOが目指すヘルスケアモデル

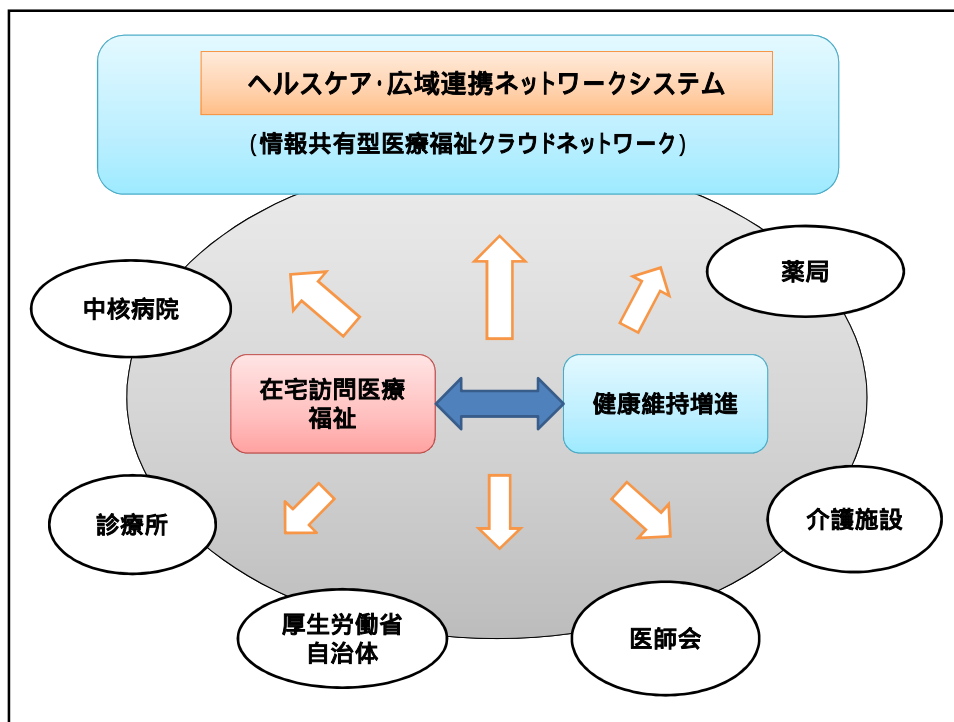
システムモデルの構成要素(技術)

1. 広域連携ネットワークシステム
2. 在宅/訪問医療福祉支援
3. 健康維持増進支援

**互いに連携すべき**

クラウドネットワークをベースとする。





## 広域連携ネットワークシステム

「広域連携ネットワークシステム」を実現する基盤技術として早くからGCMを中心に「医療クラウド」の研究を進めてきたが、この技術は25年問題を見据えた在宅医療福祉や広域医療連携を支えるきわめて有効なフレームワークとなり得、例えばチーム医療構築における情報共有や情報保護などにおいて重要な役割を担うことになる。

主な連携  
希望先

ICT企業

## 在宅/訪問医療福祉

日本は今後超高齢化社会を迎え、在宅医療福祉/訪問医療がますます重要となる。我々は、これまでGCMなどで蓄積したニーズとシーズを融合し、真に地域住民や高齢者の立場に立ち、最先端技を駆使するも、コストを押された使い易いシステムを提案していく。

主な連携  
希望先

ヘルスケア  
企業

福祉・介護  
施設

大学

## 健康維持増進支援

25年問題での重要な課題のひとつに総医療費の削減がある。それには健康寿命の更なる改善が求められる。健康維持増進は在宅医療福祉と相互に緊密な関係を保ちつつ25年問題を解決するための両輪となって充実される必要がある

主な連携  
希望先

ライフケアセンタ

自治体等

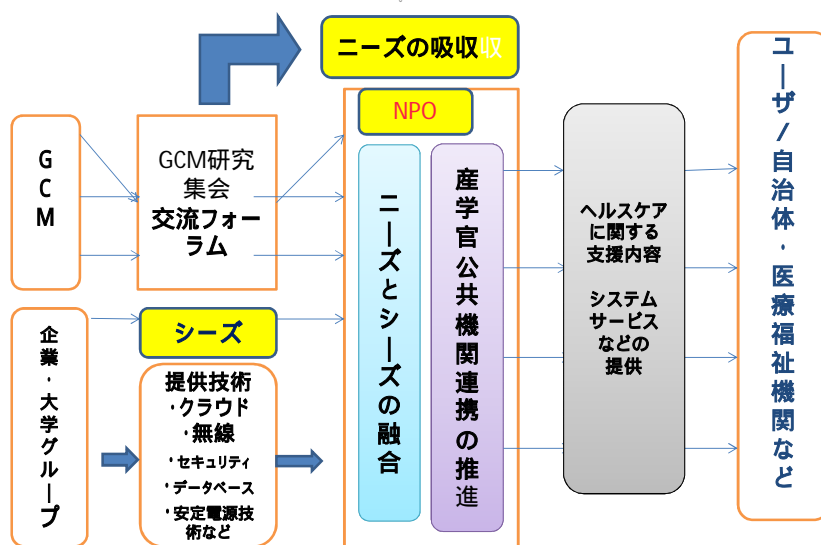
## 実現のためのアプローチ(1)

- NPOの役割を明確にする。



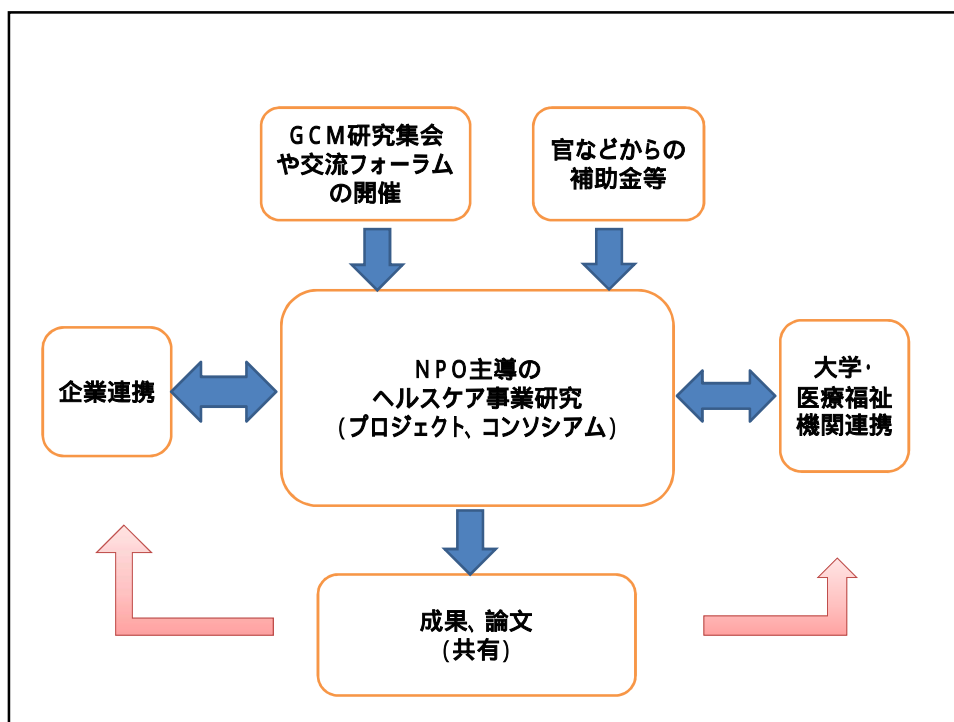
## NPOの役割の明確化

NPOはニーズとシーズを結ぶバブである



## 実現のためのアプローチ(2)

GCMと交流フォーラムの継続的開催  
企業・大学、医療福祉機関との連携  
プロジェクトやコンソシアムの立ち上げ



## まとめ

今回のGCM12が「25年問題」取り  
組みへのキックオフとなることを願い  
つつ、発表を終わらせて頂きます。  
ご清聴ありがとうございました。